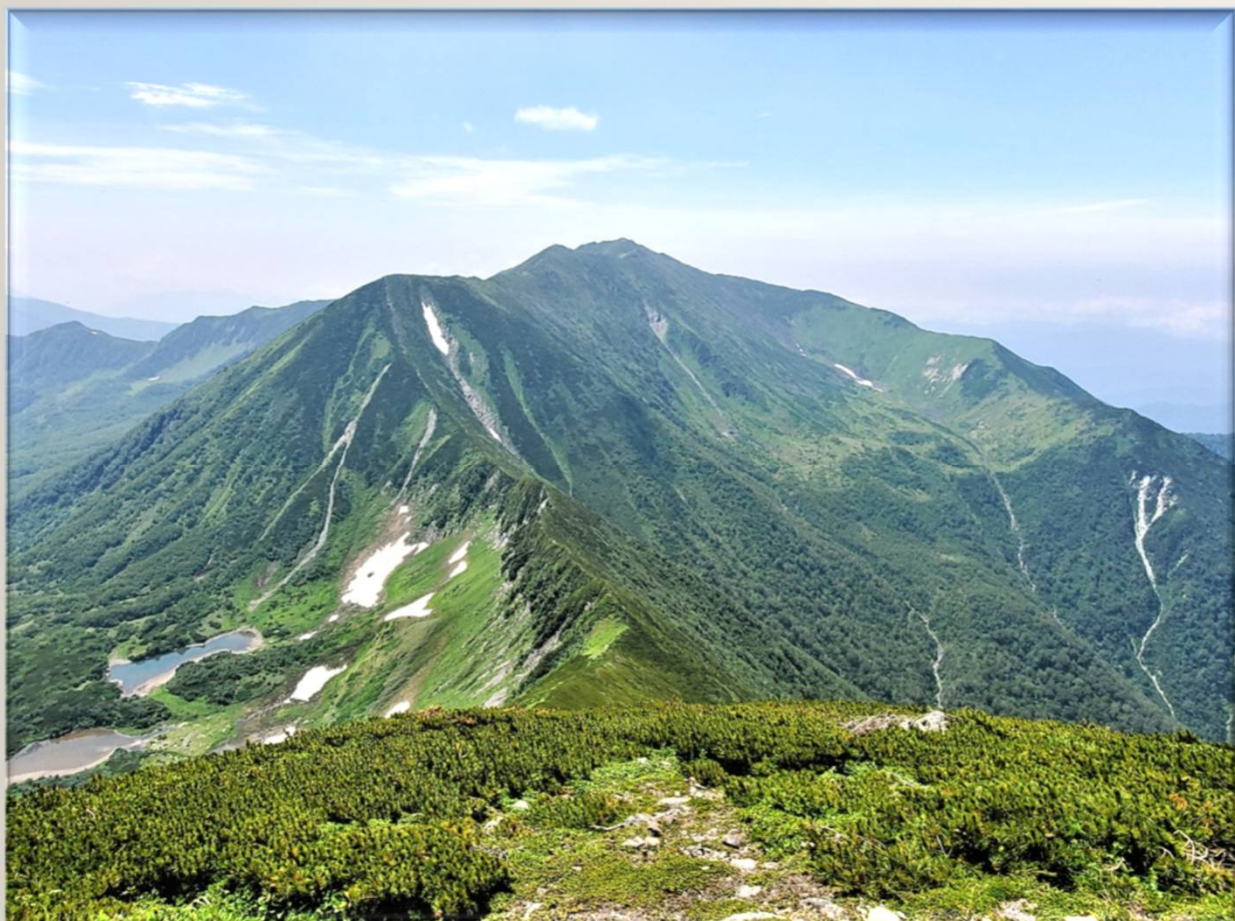


令和5年度



林野庁 北海道森林管理局

日高北部森林管理署の紹介



流域の最高峰・幌尻岳（2,052m）
（「ポロシリ」はアイヌ語で大きな山の意で、
支流・額平川の水源である）



国民の森林・国有林

日高北部森林管理署管内の国有林

日高北部森林管理署は、沙流郡日高町及び平取町に所在する10万2千haの国有林野を管理経営しています。国有林野は管内の総土地面積の59%占めており、沙流川水系や日高門別川水系等の上・中流部にその大部分が分布し、広大な水源地域を形成しています。

日高山脈の幌尻岳、パンケヌーシ岳、チロロ岳、ルベシベ山、北戸蔦別岳などの山々には、原生的な森林が広がっているため、北海道森林管理局では日高山脈森林生態系保護地域などの保護林を設定して厳格に保護・管理しています。

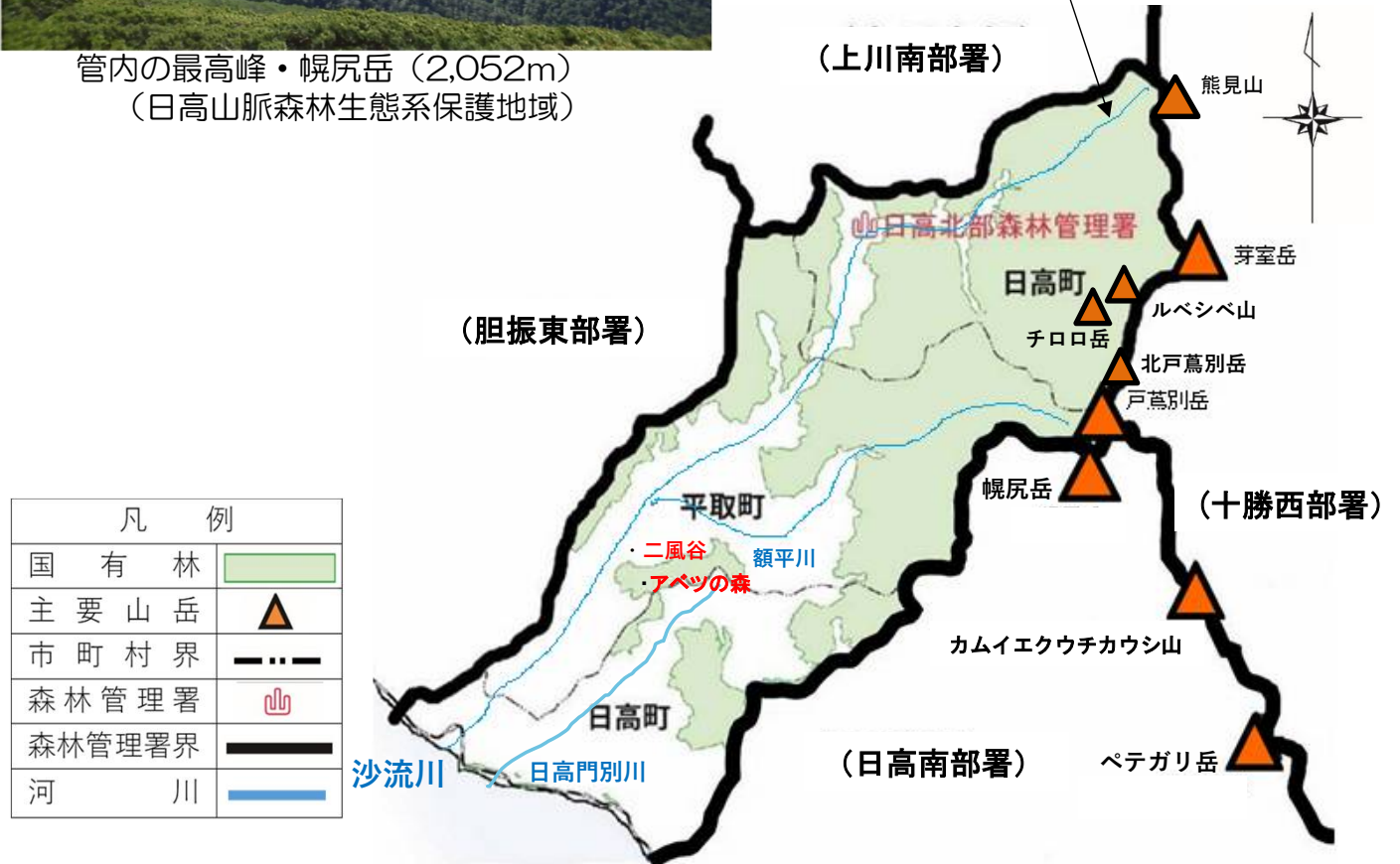
これらの森林は、北海道を代表するトドマツ、エゾマツなどの針葉樹と、ミズナラ、シナノキ、カンバ類などの広葉樹の混交林が主体で、標高の高い稜線部には、ハイマツや多数の地域固有種を含む高山植物の群落が広がっています。



管内の最高峰・幌尻岳 (2,052m)
(日高山脈森林生態系保護地域)



史跡名勝天然記念物
「沙流川源流原始林」



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
市 町 村 界	
森 林 管 理 署	
森 林 管 理 署 界	
河 川	

森林の有する機能の充実に向けて

森林は、国土の保全や水源のかん養、生物多様性の保全、森林とのふれあいの場、木材等の生産などの様々な機能を有しています。

当署では、個々の国有林の重視すべき機能の維持増進のため、山地災害防止タイプ、自然維持タイプ、森林空間利用タイプ、水源涵養タイプに区分し、タイプに合わせた森林の整備・保全を行っています。

【山地災害防止タイプ】

土砂流出・崩壊防備エリア

下層植生の発達の促進のため、適度な陽光が入るよう密度管理を行うとともに、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設を整備する。

気象害防備エリア

遮蔽能力が高く、諸害に対する抵抗力が強い森林の育成に配慮して管理経営を行う。

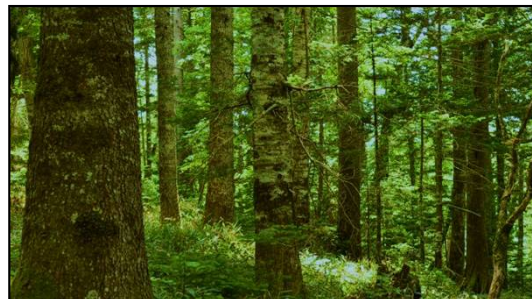


魚道を配置した治山ダム
(熊見の沢 69林班)

【自然維持タイプ】

原則として自然の推移に委ね、野生動植物の生息・育成環境の保全に配慮した管理経営を行う。

原生的な天然林や、学術的に貴重な森林、貴重な野生生物の生息・生育に必要な森林、遺伝資源の保存に必要な森林等を「保護林」に設定する。



日高山脈森林生態系保護地域

【森林空間利用タイプ】

景観の向上やレクリエーションを考慮した森林整備や、必要に応じて遊歩道等の施設整備を行う。

保健・文化的利用に供される施設、又は森林の整備を積極的に行うことが適当とされる森林を「レクリエーションの森」に設定する。



日高国際スキー場

【水源涵養タイプ】

浸透・保水能力の高い土壌の維持や、根系、下層植生の良好な発達が確立されるよう森林整備を行う。

良質で豊かな水の安定供給、濁水や洪水の緩和、水質の保全等の機能の発揮を第一とし、これらの機能が維持できる範囲で森林資源を有効利用する。

森林空間利用タイプ
1,238ha 1%

自然維持タイプ
34,269ha 34%

山地災害防止タイプ
25,610ha 25%

総面積
102,309 ha

水源涵養タイプ
41,192 ha 40%

機能類型別の面積割合

優れた自然環境を守る

〈 貴重な森林生態系を保全する「保護林」 〉

国有林では、貴重な野生動植物が生息・生育する森林などを保護林に指定し、保護・保全に努めています。

当署管内では、エゾマツ・トドマツの北方常緑針葉樹やミズナラ・シナノキなどの北方性落葉広葉樹、高山植生等からなる多様でかつ原生的な天然林を、「日高山脈森林生態系保護地域」に指定し、「大雪山森林生態系保護地域」と結ぶ森林を「大雪・日高緑の回廊」に設定しています。固有種や希少種として、高山植物のヒダカミネヤナギ、カムイビランジ、ヒダカゲンゲなどが見られ、エゾナキウサギ、ヒグマなどの哺乳類が生息しています。

また、日高山脈は、北米プレートとユーラシアプレートが衝突した結果、山脈が形成され、中生代の地質が、陸上で圧縮された様子が観察できる世界でも有数の地域となっており、日高ヒスイやクロムなどの鉱石などを見ることができます。



多様で原生的な天然林



貫気別川上流域のエゾマツ天然林



エゾナキウサギ



ヒダカミネヤナギ

安全・安心な暮らしのために

〈 防災・減災・国土強靱化に向けた治山事業 〉

当署管内では、急峻な日高山脈から流れる各河川に沿って農畜産業、下流ではコンブ等の沿岸資源による水産業が重要な産業となっています。このため、土砂の流出・崩壊などによる山地災害の防止や、災害に強い地域づくり、水源かん養機能の強化のため、荒廃地の植栽などの保安林整備、溪間工、山腹工等の治山施設の整備を計画的に推進しています。



平成28年台風10号被災地の復旧治山施設



天然石を利用した床固工ダム
(288林班サンゴの沢)

〈 山地災害への迅速な対応 〉

近年、台風による豪雨や地震等に伴う山地災害が激甚化しています。山地災害の発生時の迅速な対応とともに、二次災害の防止や災害復旧等に取り組んでいます。

人家に接する急傾斜地（私有地）の踏査・点検を実施

平成30年9月6日に発生した胆振東部地震では、日高町において山腹崩壊が各地で発生し、一部住民は避難を余儀なくされました。

当署では、日高町の要請を受け、山地災害対応に経験豊かな職員を先頭に、避難勧告地域等の人家に接する急傾斜地の踏査・点検を行い、避難勧告の継続や解除の判断の一助となりました。



点検により確認された崩落箇所と崩落危険のある巨石

緊急避難路としての国有林林道の活用

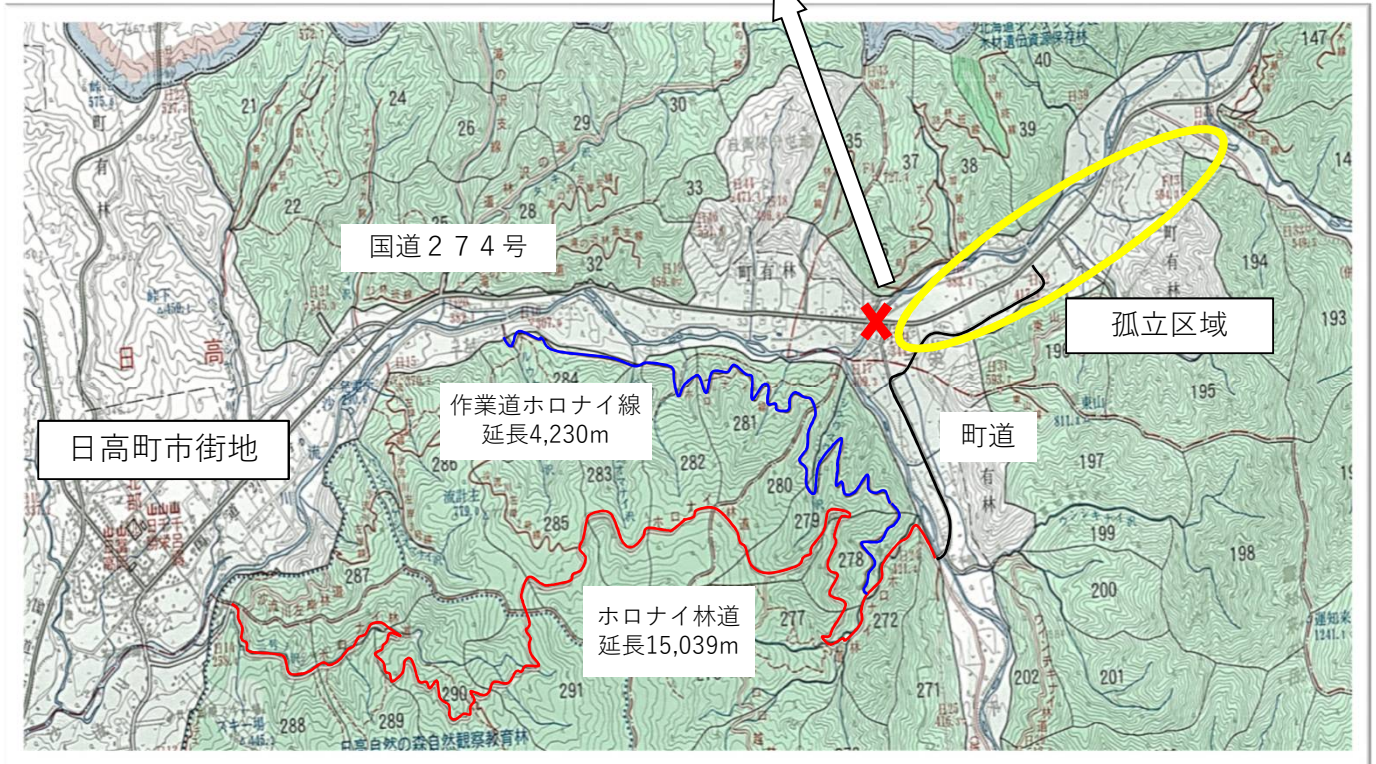
平成28年8月31日未明、台風10号による沙流川の増水により、国道274号「千呂露橋」が崩落し、千栄地区の一部住民が孤立しました。

日高町との調整により、国有林の路網（ホロナイ林道と作業道ホロナイ線）を緊急避難路等として使用することになり、朝までに補修を完了させました。

住民46世帯75人の避難とともに、千呂露橋の仮橋が架かるまでの約2週間、千栄地区住民の生活道路等として活用されました。



国道274号「千呂露橋」の被災状況



緊急避難路等として使用された国有林の路網（ホロナイ林道とホロナイ線作業道）

森林と人とのつながり

当署では、多くの皆様が、四季折々の自然の美しさを楽しむことができるよう、「自然観察教育林」や「野外スポーツ地域」などの「レクリエーションの森」を設定しています。

管内には、3箇所、約12百haの「レクリエーションの森」があり、「日高自然の森」は観光資源としての活用が期待されており、「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されています。

〈 レクリエーションの森 など 〉

日高自然の森（日高町）
「自然観察教育林」
1,082 ha

広葉樹大径木の天然林が多く、ハイキングコース、キャンプ場等の施設が整備され、昆虫採取・野鳥・化石等の観賞ができます。区域内にある「サンゴの滝」は、クロム採掘の運搬路造成時に人工的に作られ、「六射サンゴ」の化石が発見されたことが名前の由来となっています。

日高国際スキー場（日高町）
「野外スポーツ地域」
157 ha

日高山脈を背景に周囲が「日高自然の森」であり、日高地方唯一の整備されたスキー場として親しまれています。

幌尻山荘（平取町）

登山者の避難小屋として、多くの登山者に利用されています。



日高自然の森（サンゴの滝）



日高国際スキー場



オフロードバイクレース
（日高ツーデイズエンデューロ）



幌尻山荘

木材の安定供給

〈 森林整備と木材の供給による地域振興 〉

健全な人工林を育成するため、間伐等の森林整備を積極的に推進しています。再生可能な資源である木材を循環的に利用し、持続可能な森林経営を推進するため、自然条件等を考慮しながら伐採と植栽を繰り返し、木材の計画的、安定的な供給を進めています。

また、林内で利用されずに放置されてきた端材や枝条は、木質バイオマス資源の需要の高まりを受け、利用の促進に積極的に取り組んでいます。



列状間伐の実施



グラップルによる巻立作業



木材の搬出



移動式チッパーによる未利用材のチップ化

〈 低コスト造林への取組み 〉

再造林の低コスト化や省力化を図るため、コンテナ苗による植栽を推進しています。
日高振興局、日高町、平取町、沙流川森林組合などの林業関係者と現地検討会等を行い、低コスト造林の普及啓発に取り組んでいます。



ディブルを使用した植付作業



コンテナ苗

令和5年度の主要事業量

区 分		令和4年度		令和5年度		対前年度比
供給量	立木販売	4,500	m ³	7,420	m ³	164%
	製品販売	29,000	m ³	29,000	m ³	100%
造 林	更 新	10	ha	25	ha	250%
	保 育	1,382	ha	1,010	ha	73%
林 道	新 設	1,260	m	2,300	m	182%
治山事業	事業費	176	百万円	133	百万円	75%

注1：造林の更新は、新植、改植の植付、天I地拵の合計。

注2：造林の保育は、下刈、つる切、除伐、除伐2類、保育間伐（高齢級を含む）の合計。

地域とともに

〈 日高流域の民・国連携の取組 〉

地域における森林の適切な整備や林業・林産業の活性化を図るため、民有林行政を担当する日高振興局・森林室（平取事務所）等と連携し、森林計画等の策定における調整や現地検討会等を行っています。

また、地域における課題やニーズを的確に把握するため、日高地域林政連絡会議や、日高町、平取町との連絡会議を開催し、国有林からの情報発信、地域に対する助言等を行っています。



日高町林活議連治山現地見学会



平取町林活議連生産現場見学会

〈 エゾシカ被害対策 〉

エゾシカによる森林被害を軽減するため、食害等の影響の把握を目的とした簡易影響調査を実施するとともに、町、地元猟友会との連携による銃猟のほか、くくりワナ、モバイルカリングなどによる捕獲に取り組んでいます。



林道除雪と誘因のための餌



小型囲いワナ

〈社会貢献の森で植樹祭〉

社会貢献の森とは地球環境保全への関心が高まっている中、企業などにおいても社会貢献活動の一環として森林の保全・整備に取り組みたいという要請に応えるため、企業などと森林管理署等が協定を結び、森林整備活動のフィールドとして国有林を提供する制度です。当署管内では、令和3年に初めての社会貢献の森が設定されました。



2021年王子フォレストリーの森
日高国有林286林班



2021年王子フォレストリーの森
植樹祭の様相

〈森林教室の実施〉

地域の小中学校などからの要請に応じて職員を派遣し、児童・生徒の皆さんを対象とした、森林教室・体験学習を開催しています。森林の働きや役割などについて説明し、森林環境教育の推進等に取り組んでいます。



日高小学校の森林教室

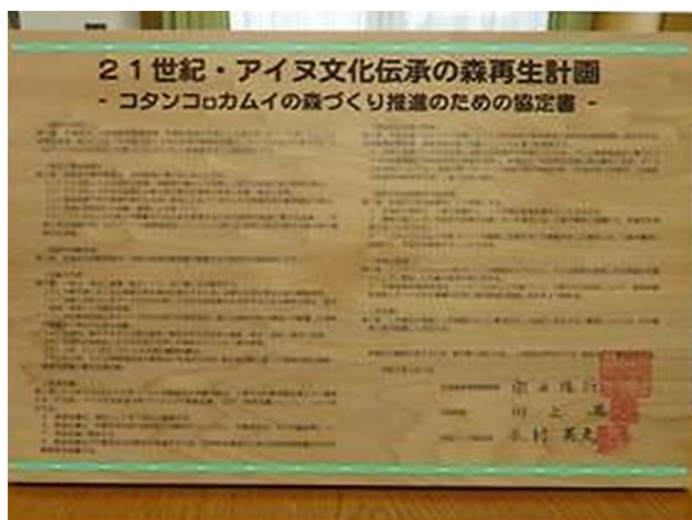


スウェーデントーチ作り

〈 アイヌ文化伝承の森 〉

北海道森林管理局、平取アイヌ協会、平取町の三者は、平成25年4月（令和2年4月更新）に、「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコロカムイの森づくり～」包括協定を締結し、平取町内の国有林において、アイヌの人々が伝統的に狩猟や採取等の場として利用してきた、北海道古来の森林の再生等に協同・連携して取り組んでいます。

具体的には、アイヌ文化で自然素材として用いるオヒョウ、アオダモ、キハダ、イヌエンジュ、エゾヤマザクラ等の広葉樹の植栽や、この計画のシンボルでもある「コタンコロカムイ」（シマフクロウ）の営巣環境の改善などに取り組んでいるところです。



協定書（カツラの木製）



シマフクロウの巣箱の設置

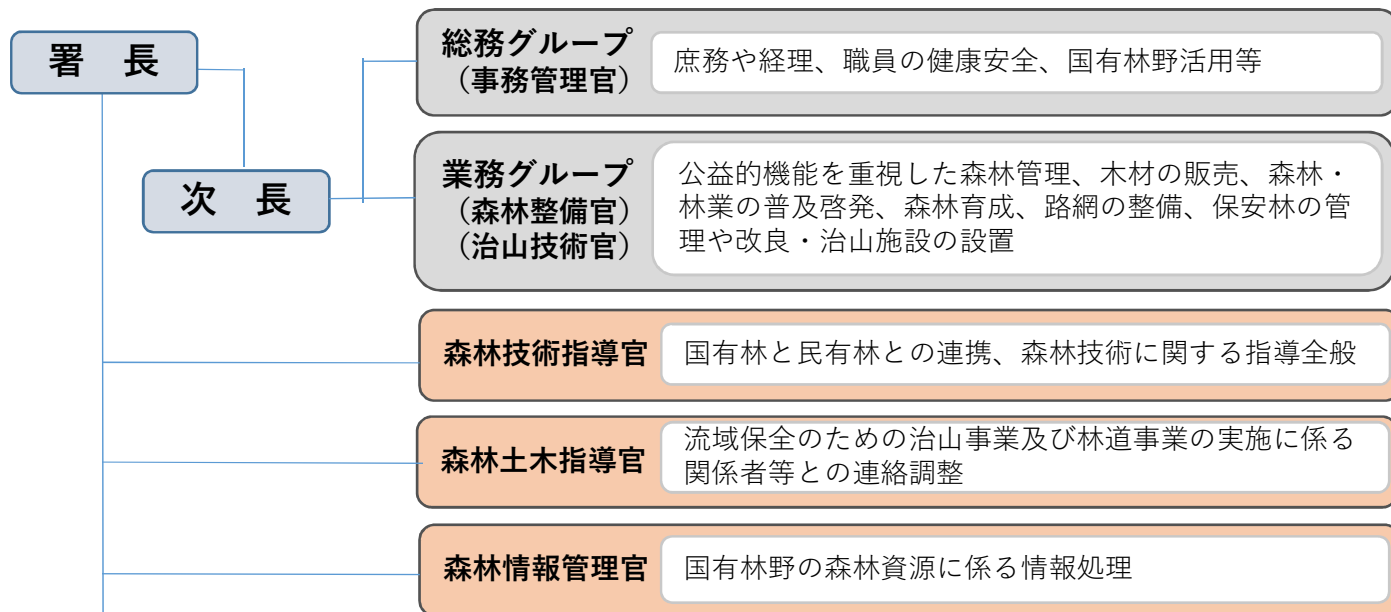


アイヌが伝統的に利用している
草木植物の調査



トドマツの枝で建てたクチャチセ
（アイヌの狩り小屋）

日高北部森林管理署の組織



森林事務所 (各担当区の国有林の管理)

日高森林事務所 (富岡・日高・千呂露担当区)

首席森林官

日勝森林事務所 (千栄・日勝担当区)

首席森林官

日高町栄町東2丁目258-3

01457-6-3466

門別森林事務所 (門別担当区)

森林官

日高町字厚賀62-4

01456-5-6651

振内森林事務所 (振内・仁世宇担当区) 01457-3-3409

首席森林官

貫気別森林事務所 (宿主別・貫気別担当区)

首席森林官

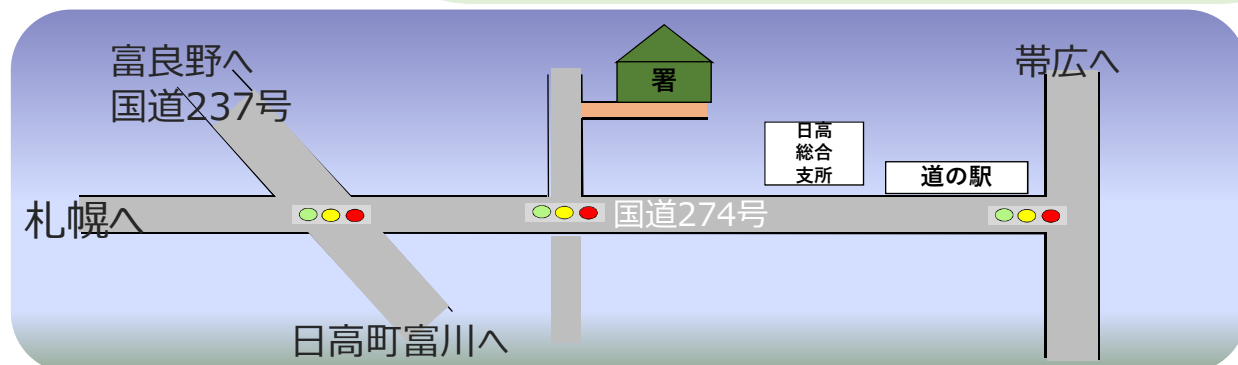
幌尻森林事務所 (幌尻担当区)

森林官

平取町振内町31-3

01457-3-3539

<署周辺案内図>



日高北部森林管理署の沿革

明治19年	農商務省から北海道庁所管
21年	浦河林務課員派出所を設置
41年	札幌営林区署浦河分署所管
昭和 3年	浦河分署が浦河営林区署に昇格
18年	苫小牧営林区署を設置し所管
22年	林政統一により振内営林署が発足
35年	振内営林署の日高村地区を分割し、日高営林署を設置
平成11年	振内営林署と日高営林署を統合し、日高北部森林管理署を新設
13年	振内事務所を廃止し、日高北部森林管理署に一元化
23年	日高南部森林管理署から門別森林事務所を編入
25年	国有林野事業特別会計が一般会計に変更、組織はグループ制



林野庁 北海道森林管理局

日高北部森林管理署

〒055-2303

北海道沙流郡日高町栄町東2丁目258-3

TEL : 01457-6-3151 IP : 050-3160-5705

e-mail : h_hidakahokubu@maff.go.jp